

## 桃栗三年柿八年

日本のことわざにもあるように、どんな有意義な取り組みにも必要な時間というものです。

広島の名高い白神神社の愛宕池のほとりに立つ私たちの柿の木（学名 *Diospyros kaki*、英名 Japanese persimmon）は、被爆樹木の中でも実を結ぶ数少ない存在の一つです。

この木は威厳に満ちた佇まいをしていますが、背が高く、実が重く、枝が折れやすいため、剪定や支柱の設置など、日々のメンテナンスが必要です。また、鳥や虫から身を守るために、防虫剤やネットの設置も必要です。柿の木の成長は遅く、実を収穫するには数年かかります。しかし、その長い寿命と、秋の味を堪能できることから、多くの人々に愛されています。日本各地に自生している柿の木は、古くから日本人の生活に欠かせない存在であり、その歴史は古く、中国や韓国などから伝わったとされています。現在では、多くの品種が育ち、それぞれ異なる特徴を持っています。私たちの柿の木は、その中でも貴重な存在であり、その実を収穫し、干して食べることで、秋の味を堪能することができます。また、柿の葉は、乾燥させてお茶や香料として利用されることもあります。柿の木は、私たちの生活に欠かせない存在であり、その歴史と文化を大切に守っていかねばなりません。

*Diospyros kaki* は中国からイランにまで伝わった品種で、シルクロードを旅した初期の果樹の一つです。百科事典「イラン百科事典 (Encyclopædia Iranica)」の素晴らしい研究者たちは、近年、この柿のイランにおける存在について、項目を新たに作成しました。ペルシャ語では「コルマルー (Kormalu / Khormalu)」と呼ばれ、「コルマ (デーツ)」と「アルー (プルー)」を組み合わせた言葉で、その形や甘さに由来すると考えられています。イランをはじめ、不正義や暴力が世界各地で日常的に起きているこの不満に満ちた冬の季節に、私たちは無力感を覚えることも少なくありません。

だからこそ、こうした驚くべき生存者である樹木たちに手を添えると、心を癒し、力を与えてくれるような心地がします。樹木はしばしば私たち人間よりも賢く、穏やかであり、しなやかな強さや静かな抵抗について多くのことを教えてくれるのです。

私たちは、柿の木について「Persimmon Story (柿物語)」として詳しく紹介してまいりました。その中には、母木から数メートル離れた場所まで育つ子孫の木（元UNITAR所長に敬意を表して「カルロスの木」と名付けられた柿の木）の物語も含まれています。上にある本のことわざには、カルロスの木が実をつけるまでには実際に約八年かかりました。昨年、私たちはそれらの実の皮をむいて干してみました。確かに甘いたまごや蜜の味は、冬支度をしていようように、少し儂げに見えます。しかし、春はもうすぐそこまで来ています。

GLHファミリーのパートナーの皆さま、中世代の柿の木が実を結んだというお話があれば、ぜひお聞かせください。その間、どうか皆さまご自身の被爆樹木の孫を大切に育み続けてください。そし、その木々が、日々、世界をよき良きに変えていくための力と知恵をもたらしてくれたいです。

ナズリーン・アジミ  
共同創設者／コーディネーター  
グリーン・レガシー・ヒロシマ (GLH)



Japanese Persimmon (*Diospyros kaki*)

カキ (柿)

爆心地から530メートル

所在地：広島市中区小町3丁目（平和通り沿い、白神神社に隣接）